

2 家畜を起因とした労働災害防止のポイント

家畜を起因とした労働災害を防止するためには、まずは家畜ごとの特性を理解することが重要です。ここでは牛と馬を例に取扱いのポイントを説明します。

牛の取扱いのポイント

▶ 共通事項

1 牛に近づく前には必ずスタンションを！

- 人間から危害を加えない限り牛から危害を加えてくることは稀ですが、牛が注射など苦痛なことをされると考えた場合は急に暴れだす可能性があります。
- 牛に近づく前にはスタンションをかけて動きを制限しましょう。



必ずスタンションで牛の動きを制限

2 牛への声掛けや接触で近づく合図を！

- 牛は人間が近くにくると何かされると考えます。
- 人間が牛に近づくとき、特に後方から近づくときは、
 - ・ 牛への声掛け
 - ・ 牛を手で触るなどでこれから近づくことを理解させましょう。



近づくときは牛を手で触るなどで合図

3 牛付近の落とし物には注意！

- 牛付近に物を落としても、すぐに手で拾うことはせず、落とし物を足で蹴るなどして、牛に蹴られる範囲の外に移動させてから拾いましょう。
- 牛の前方付近の落とし物は移動させることが困難であるため、牛を移動させた後に拾いましょう。



落とし物は足で蹴るなどで移動させて拾う

4 両端の牛には要注意！

- 両端の牛はスタンションをかけていても比較的自由に動くことができ、動きが大きくなることから注意が必要です。
- 複数名で牛の動きを制限することや、牛の気性によっては端から中央に入れ替えてから作業しましょう。



両端の牛は複数名で動きを制限

5 それでも暴れる場合はロープ^(頭絡)で固定を！

- 両端の牛を中央へ移動させることが困難な場合、気性が特に荒い場合には、ロープ^(頭絡)で牛の頭を固定して、胴体の動きを制限しましょう。



気性が荒い場合は頭絡を使用

▶ 分娩業務

- 1 単房に入るときは必ずスタンションをかけましょう。
- 2 子牛のケアをするときは、親牛が子牛を守るために人間に向かってくるおそれがあることから、必ず親牛にスタンションをかけましょう。
もし、スタンションに入らないときは柵などで動きを制限しましょう。
- 3 分娩後、単産か多産かを確認するため産道に手を入れるときにも、必ずスタンションをかけましょう。
- 4 単独で分娩できない、逆子などの異常が認められて助産する場合、スタンション、頭絡で親牛の動きを制限するとともに、広いスペースを確保しましょう。



分娩用の単房の例

▶ 育成業務

- 1 スタンションをかけることを徹底しましょう。
- 2 雌牛は蹴る、雄牛は頭突きをする、といった傾向があります。
このため、雄牛は単独で引っ張るのではなく、複数名で左右に引っ張るなどして動きを制限しましょう。
- 3 まだ個体が小さい場合にはレースの中には遊びが生じることがあり、レースの中で足を踏まれるおそれが高まることに注意しましょう。



レースの例

▶ 削蹄業務

- 1 脚を固定する際には蹴られるおそれが高まりますので、十分に注意しましょう。
- 2 グライNDERで削蹄する場合は、爪の間の石がはじかれて、飛来することへの注意が必要です。
保護メガネ、保護手袋を着用しましょう。



削蹄枠場の例

馬の取扱いのポイント

1 馬の特性を理解！

- 馬にも性格、気分があります。意志があると考えて接することが重要です。
- 風や物が転がる音にも驚き、急に走り出すことがあります。本気で怒ったときにはかじったり、蹴ったりします。
- 牡馬は気性が激しく、特に牝馬に接近すると興奮するため、牝馬から離すことが重要です。
- 牝馬は比較的小となしいものの、仔馬がいたら、母性が強い個体ではかみつくななどの威嚇行為を行うことがあります。



馬群に入る時は人間の存在を認識させる

2 馬群に入るときは特に注意！

- 1頭が驚いて動くと、周りの馬も動き、馬群に人間が巻き込まれて危険です。
- 声掛けや体を触るなどで、これから人間が行くことをアピールしましょう。
- シートや物などの音が出るもの、濃淡がはっきりしたものは馬が驚くことにつながることから、事前に除去しましょう。
- 馬の真正面、真後ろからは近づかないようにしましょう。

※ 馬の視野は約330度、真正面と真後ろが見えないといわれています。馬にとって見えない位置から人間が急に出てくる、人間が急にいなくなることで不安になり、蹴ることがあります。

3 いつもと違うシチュエーションに注意！

- 馬を屋根が低い建屋に入れる、輸送のために内部が暗いトラックに載せるなど、いつもと違うシチュエーションは作業事故のリスクが高まります。
- 正面ではなく斜め前から馬を引いて、馬の動線に入らないようにしましょう。
- 不安を感じた馬が急に動いた場合、狭い場所だと逃げ場がなく危険です。
- これから何をされるのか分かっていない若い馬には特に注意しましょう。

4 馬が暴れたら、走って逃げる！

- 馬が暴れだすと、どうすることもできません。
- ロープから手を離して逃げ、馬が落ち着くまで待ちましょう。